

## 令和5年度 第1回よっちゃばれ放談会 要旨

日 時	令和6年2月8日（木）午後3時00分～午後4時30分
会 場	甲府市役所本庁舎4階 市民対話室
参 加 者	企業関係者3名
市出席者	市長、環境部長、環境総室長、環境政策課長 市民部長、市民協働室長
次 第	1 開会 2 市長あいさつ 3 参加者自己紹介 4 意見交換 5 閉会
意見交換 「ゼロカーボンシティの実現」	
市民協働室長	<p>みなさん、こんにちは。</p> <p>皆様、大変お忙しい中、ご参加をいただき、誠にありがとうございます。</p> <p>私は、本日の司会をさせていただきます市民協働室の板山と申します。よろしく願いいたします。</p> <p>本日のよっちゃばれ放談会は、「KOFU NEXT ACTION」より、今年度の年間テーマであります『グリーンで快適なまち』の中の「ゼロカーボンシティの実現」を第1回目のテーマとして、皆様にご参加をいただいております。樋口市長と様々な意見交換を行っていただきたいと考えておりますので、何卒よろしくお願いいたします。</p>
甲府市長	<p>はじめに、環境における世界的な問題としまして、「地球温暖化」や「海洋プラスチック問題」などが挙げられていますが、昨年は年間を通して気温の高い日が続いたことは、記憶に新しいところです。</p> <p>特に夏場は、1898年の統計以降、最も高い平均気温を記録するなど、地球温暖化対策の重要性について強く感じたところでありますが、「地球温暖化」や「海洋プラスチック問題」などへの対策、また、自然環境の保全について、企業として、どのような行動が必要であるとお考えでしょうか。</p>
参加者 A	<p>かけがえのない美しい地球環境を次の世代に引き継いでいくことは、私たち世代の責任であり、これこそがサントリーグループが一丸となってサステナビリティ活動に取り組む最大の理由です。</p> <p>なかでも水のサステナビリティは、「水と生きる」を掲げるサントリーグループの大きな責務でありますことから、大切な水資源を守るための真摯な取り組みを長年続けてきております。</p>

<p>参加者 B</p>	<p>海洋プラスチックが課題になっている中、使用済みペットボトルのリサイクルを率先して推進していく事が、ペットボトルを製品として使用している飲料メーカーとして、リーディングカンパニーとして必要な事と考えています。また、ペットボトルの原料は化石由来原料であり、資源のない日本にとって、この活動により石油使用量を削減し、循環型社会に貢献することが必要です。</p> <p>更に、ペットボトルのリサイクルによって CO2 の排出量を化石由来原料からの製造と比較して約60%削減することが出来ます。</p>
<p>甲府市長</p>	<p>ご意見ありがとうございます。</p> <p>ただ今、石油使用量やCO2 排出量を削減した循環型社会への貢献や、自然環境を保全することの責任など、企業として必要とされる行動や考え方について、ご意見を伺わせていただきました。</p> <p>特に、参加者 A 様からの「美しい地球環境を次の世代に引き継いでいくことは、私たち世代の責任である」というお言葉は、私も強く実感しています。</p> <p>本市におきましては、「甲府市地球温暖化対策実行計画」に掲げる目標を達成するためには、行政はもとより民間事業者の皆さまの果たす役割が、非常に大きいと捉えております。</p> <p>そうした中で、御社におかれましては、日本のみならず海外も含め、多くのグループ会社・従業員を抱える企業として、社会的責任（CSR）を果たそうとされている姿勢に対しまして、改めて敬意を表します。</p> <p>続きまして、先ほどのご意見を踏まえまして、現在、皆さまが特に注力されていること、また、今後に取り組みたいことがございましたら、ぜひ考えを教えてくださいたいと思います。</p>
<p>参加者 A</p>	<p>当グループでは、水源涵養機能の向上と生物多様性の再生を目的とした活動である「天然水の森」を2003年から開始しております。現在、15都府県22カ所、約12,000haにまで拡大し、国内工場で汲み上げる地下水量の2倍以上の水を涵養しています。（山梨県白州は約2000ha）</p> <p>そうした想いを次世代に伝えるべく、子どもたちが自然のすばらしさを感じ、水や水を育む森の大切さに気づき、未来に水を引きつぐために何ができるかを考える、次世代に向けた教育プログラムである「水育」に取り組んでいます。</p> <p>具体的には「S社天然水」のふるさとで開かれる、自然体験プログラムである「森と水の学校」と社会科等の単元として担任の先生と水育講師で行う授業である「出張授業」を行っています。</p> <p>今後は出張授業を甲府市内の小中学校向けにさらに展開していきたいと考</p>

<p>甲府市長</p>	<p>えております。</p> <p>参加者 A 様からお話がありました「水源涵養」でございますが、本市の森林面積は、市全体面積の約6割以上を占めており、甲府市の特徴の一つであると思っています。</p> <p>また、本市の水は、その森林を通じて荒川ダムに貯水されたものを利用してのことからも、水源涵養は非常に重要であると認識しております。</p> <p>本市では、お手元に配布させていただきましたが、美しい自然を後世に引き継ぎ、健康で安全かつ快適な生活のための良好な環境を確保する「環境保全事業」に取り組んでおり、小中学生を対象に、森や自然の大切さを認識いただき、自然保護の意識高揚を図るプログラムなどを掲載した「環境教育プログラム」を推奨しています。</p> <p>また、御社には、本市との「SDGs 推進に関する共同宣言」による「水育」や「ペットボトル」の環境教育を、市内の小中学校*で実施いただき、ありがとうございました。</p> <p>受講された生徒や担任の先生から、「楽しかった」、「とても勉強になりました」との感想をいただいております。</p> <p>こうした、子どもたちに向けた環境教育は、非常に重要であると思っておりますことから、引き続き、御社にご協力をいただきながら、本市でも積極的に取り組んでまいりたいと思います。</p>
<p>参加者 B</p>	<p>「ボトル to ボトル」に関して、甲府市を含めて全国100以上の自治体と協定を結び、市民の皆様の排出された使用済みペットボトルを、サントリーの飲料商品の包材の原料として使わせていただく活動をしています。</p> <p>また、山梨県ではスーパーとも協定を結ばせていただき、スーパー様で集められた使用済みペットボトルにつきましても、リサイクルしてサントリー商品の包材として使わせていただいております。</p> <p>また、リサイクルには、出来るだけ綺麗な使用済みペットボトルが望ましいので、市民の皆様のご協力が必要になります。</p> <p>サントリーでは、小学生への環境啓発授業や、大型スーパーでの啓発イベントを推進してきました。また、企業の広告活動でも「ペットボトルは分ければ資源、混ぜればゴミ」を、TVCM や新聞雑誌広告で展開してきました。</p>
<p>甲府市長</p>	<p>参加者 B 様からご意見を伺いました「ボトル to ボトル」の活動ですが、冒頭のあいさつでも申し上げましたが、本市と連携協定を締結する中で、積極的に取り組んでいただきまして、改めて感謝申し上げます。</p> <p>この、ペットボトルの水平リサイクルである「ボトル to ボトル」の取組は、ゼロカーボンシティの実現に向けて、より温室効果ガスの削減効果が期待できる、大変有効な取組であると認識しておりますことから、今後も、積</p>

<p>参加者 C</p>	<p>極的に推進していく考えです。</p> <p>また、お話にありましたように、ペットボトルに限らず、リサイクルできるものは、できるだけきれいにして排出いただくことが望ましいとされております。</p> <p>今後においても、「3R+Renewable（スリーアールプラスリニューアブル）」を推進していく観点から、市民の皆さまに、「リサイクルすることが当たり前」という意識の醸成を図るよう、市のイベントや広報誌などを通じて、積極的に周知してまいります。</p> <p>全社施策の県内展開に加え、昨年は「地域資源を未来に繋ぐ」をテーマに特に水を中心とした取組を強化してきました。先に説明した水育では山梨県内では昨年比 2.2 倍、小学校 4 年生の 11% に受講いただきました。</p> <p>今年は中学生へ対象を拡大し、「森と水の環境セミナー」を展開していきたいと考えています。また山梨県立大学でも「地域資源の保全とブランド化」の講座を実施させていただきました。</p> <p>いずれも若い世代に対する啓発活動ですが、学び、自分事化できた若者の知力・行動力には大きな可能性を感じました。</p> <p>昨年、山梨県と締結した P2G システムについても、白州工場に 2025 年に導入される見通しですが、導入後どのように稼働・維持していくかが今後の課題であり、まさに「水素人材」が必要になると考えています。</p> <p>本日のよっちゃばれ放談会は、豊富なビジネス経験をお持ちの事業者の皆様と樋口市長に意見交換を行っていただき、より良いまちづくりに繋げていくことを目的に開催いたします。</p> <p>限られた時間ではございますが、樋口市長と様々な意見交換を行っていただきたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。</p>
<p>甲府市長</p>	<p>本市では、昨年の 11 月に、ゼロカーボンシティ実現のための拠点施設として「こうふグリーンラボ」を、甲府市リサイクルプラザ内に開設したところであり、水素エネルギーの利活用につきましても、このラボを拠点として、産学官の協力*のもと、調査・研究を進めていきたいと考えます。</p> <p>また、「水素人材」が必要であるとのご意見を伺いましたが、(子どもたちへの環境教育を通じて) 将来的な水素人材の育成につながるような取組につきましても、併せて進めていきたいと思っております。</p>
<p>甲府市長</p>	<p>それでは、最後となりますが、今後、「ゼロカーボンシティの実現」に向けて、本市に期待することをお聞かせください。</p>
<p>参加者 B</p>	<p>甲府市様とは「ボトル to ボトル」の協定を結ばせていただいておりますので、この活動の市民への周知と、ご協力依頼を、積極的に展開していただ</p>

<p>甲府市長</p>	<p>けたらと思います。 市民皆様の方で、ボトルからボトルへのリサイクル率を更に上げていければ嬉しく思います。</p> <p>ありがとうございました。 「ボトル to ボトル」の活動でございますが、繰り返しになりますが、より多くの市民に取り組んでいただくことが重要であると思っており、そのためには、多くの方々に活動を知っていただく場を創出することが必要です。 昨年、新型コロナウイルス感染症が2類から5類に移行したことを契機に、コロナで自粛されていまして様々な催し物が開催されております。 催しには、多くの来場者が期待されますことから、引き続き、「ボトル to ボトル」の活動内容につきまして、「甲府大好きまつり」、「プラスチック・スマート・キャンペーン」、「まなびのSDGs」等といった市のイベント会場や、教育の現場において、積極的かつ粘り強く、啓発を続けてまいります。</p>
<p>参加者 A</p>	<p>先程もふれた通り、今年度は小学校の水育出張授業に加え、中学生向けの森と水の環境セミナーを導入していきます。水は山梨にとって大切な地域資源であり、小中学校のうちにその大切さを学ぶことは地域を知るという点でも重要だと思えます。県の中心となる甲府市でもより多くの児童・生徒の皆さんが学んでいただける機会を提供いただければと思えます。</p>
<p>甲府市長</p>	<p>多くの児童・生徒の皆さんが学んでいただける機会の提供というご意見をいただきましたが、水育等の取組につきましては、(お手元の)本市の「環境教育プログラム」に掲載させていただき、先日(2月2日)市内の小中学校へプログラムを配布するとともに、積極的に取り組んでいただけるよう、お願いをしてきました。 今後も、小中学生が学び続けることができる機会を創出してまいりますので、サントリーの皆さまにおかれましては、本市と共に環境教育に取り組んでいただきたいと思います。</p>
<p>参加者 C</p>	<p>カーボンニュートラルや水の取組はある意味終わりのない取組であると考えます。 市に期待することは「持続性」で、そのためには市民の皆様「気づきや体験機会」の場の提供をいただくことで、市民の皆様が「自分事化」できるような仕掛けづくりかと思えます。 官民両輪で取り組むことがSDGSの実現のみならず、シビックプライドの醸成に繋がるものと思えます。</p>

樋口市長	<p>本市でも、ゼロカーボンシティの実現へ向けた取組は、途切れることなく続けていかなくてはならないものであると認識しており、「甲府市地球温暖化対策実行計画」の各アクションプランに掲げる取組を着実に進め、継続していくことが、SDGsの実現や市民意識の醸成につながっていくものと確信しています。</p> <p>また、シビックプライドの醸成につきましては、本市では、開府500年を契機として、これまで地域の歴史や文化等の継承、賑わいの創出について取り組んでまいりました。</p> <p>今後も、市民の皆さま、とりわけ、子どもたちには「環境保全事業」を通じて「甲府の豊かな自然」を再認識いただき、本市の誇りとして、未来に受け継いでいきたいと思っています。</p> <p>ただいま、皆さま方から、本市に期待する様々なご意見を伺いまして、改めて身が引き締まる思いであります。</p> <p>皆様方のご意見を心に留めまして、一步ずつ、着実に取組を進めながら、ゼロカーボンシティの実現に向けて、邁進していきたいと思っております。</p> <p>本日は、貴重なご意見を伺わせていただきましたが、ここで、意見交換会を、一旦お開きとさせていただきます。</p> <p>ありがとうございました。</p>
市民協働室長	<p>それでは皆さま、長時間にわたり、様々なご意見を頂戴いたしまして、ありがとうございました。最後に、市長から、本日の意見交換会についての総括をお願いいたします。</p>
甲府市長	<p>本日は、長時間にわたり、「ゼロカーボンシティの実現」というメインテーマのもと、様々な意見交換をさせていただき、改めて感謝申し上げます。</p> <p>皆さま方との意見交換を通じて、ゼロカーボンに先駆的に取り組む民間事業者と、連携しながら事業を進めていく必要性を認識させていただきました。</p> <p>私は、本市の豊かな自然環境を、次世代の子どもたちへ引き継いでいきたいと、強く思うところであり、子どもたちが環境について学び、体験する機会を創出することで、乾いた大地が水を吸収するように知識を吸収し、行動することが、最も大切であると考えています。</p> <p>環境教育の重要性につきましては、皆さまからも貴重なご意見をいただき、また、積極的に取り組んでいくという思いを伺い、とても心強く感じております。</p>

<p>市民協働室長</p>	<p>今後におきましても、「教育」には特に力をいれ、市内の小中学生に向けた、積極的な次世代環境教育に取り組んでまいります。</p> <p>また、S社様も注目している次世代エネルギーとして期待されております「水素エネルギー」につきましても、多様な利活用の具体化をメインテーマに、ゼロカーボンの推進拠点であるこうふグリーンラボにおいて、人材育成や実証研究事業を展開してまいります。</p> <p>引き続き、「ゼロカーボンシティ」の実現に向けて、全庁一丸となって取り組んでまいります。行政のみの取組では、どうしても限界があります。</p> <p>それぞれの取組を継続しながら、力強く前進していくためには、次世代を担う子どもたちが、環境について理解を深め、学び続けることが大事であり、専門的な知見をお持ちである、サントリーの皆さま方と共に取り組んでいく、「協働」という観点は欠かせません。</p> <p>今後も、サントリーの皆さま方と、より一層の連携を深め、本市と両輪となって環境教育に取り組んでいただくことをお願い申し上げ、本日の総括とさせていただきます。</p> <p>ありがとうございました。</p> <p>また、本日は大変お忙しい中、ご出席をいただき、それぞれのお立場から貴重なご意見をいただきましてありがとうございました。</p> <p>これをもちまして、令和5年度 よっちゃばれ放談会を終了させていただきます。</p>
---------------	---